

## 亀田城下と子吉川流域コース

天鷲村

龍門寺(亀田藩岩城家墓所)

妙慶寺

長谷寺の赤田大仏

本荘市郷土資料館

永泉寺山門

岩館のイチョウ

湯出野遺跡

### 天鷲村(岩城町)

天鷲村の名は、この地の古代の豪族と伝えられる天鷲速男にちなんでいます。亀田城大手門を模した城門をくぐると村内です。亀田藩の歴史を展示する史料館、武家や農家の住宅を展示する町指定有形文化財遠藤家・鶴沼家・佐々木家、すぐれた先人を顕彰する記念館や美術館、伝統技術実演の鎌田家、ジオラマ・音・光による歴史館があります。

### 亀田藩主岩城家墓所(岩城町)

この墓所は岩城氏の菩提寺・龍門寺にあります。墓所は本堂裏の山麓の一部を整地して営まれ、霊屋1棟、五輪塔6基などからなり、荘厳な雰囲気です。近世の大名家墓所として、県内では秋田市天徳寺の秋田藩主佐竹家墓所とならんでよく整った代表的なものです。

### 妙慶寺(岩城町)

この寺は寛永6年(1629)の草創、開基を亀田藩主岩城重隆の生母顯性院とする名刹で、

そのゆかりの品々が残っています。なかでも着用した精巧な甲冑や黒塗の上に牡丹唐草文の金蒔絵の装飾が施された衣桁は、県指定有形文化財(工芸)に指定されています。

### 長谷寺の赤田大仏(本荘市)

寛政4年(1792)、是山和尚により創建された曹洞宗の寺院です。安置される十一面観音立像は、桜井市・鎌倉市の長谷寺のものとならび日本三大観音の一つで、地名にちなみ赤田の大仏と呼ばれています。現在のものは明治25年(1892)に造像されたものですが、全身が金色に輝き荘厳な宗教的雰囲気をつくりあげています。

### 本荘市郷土資料館(本荘市)

昭和56年(1981)の開館で、本荘市の歴史・民俗・絵画などの資料を展示しています。常設展示室には合併前の町村単位にその歴史を紹介し、その後の本荘市の発展を展示しています。菖蒲塚貝塚から発掘した考古資料のほか、円空仏、本荘狩野派の絵画、民俗資料などを収蔵しています。子吉川や本荘市街地、鳥海山を望む閑静な所です。

### 永泉寺山門(本荘市)

曹洞宗の名刹で、元和9年(1623)に本荘藩主となった六郷氏の菩提寺。山門は慶応元年(1865)の建造で、由利郡の代表的な重層の門です。幕末期の寺院建築にふさわしく、随所に華麗な装飾をほどこし、1階左右には仁王・金剛両力士像、2階には釈迦三尊像・十六羅漢像が安置され、1階天井などにはあざやかな花鳥画が見られます。

### 岩館のイチョウ(東由利町)

諏訪神社の社殿の背後にたつイチョウの大木で雄株です。主幹の上部は落雷によりすてなく、地上約1.5~3.5mの間で、大小約10本の支幹に分かれ、四方に伸びています。樹幹の周囲約8.4m、樹高にく

らべ枝張り直径約30mと大きく、県内屈指のイチョウの巨木として知られています。

### 湯出野遺跡(東由利町)

高瀬川の支流、松沢川の右岸にある縄文時代後期から晩期にかけての土壌(墓地)群で、県内では最大規模のものです。土壌は103基、長方形ないし小判形で、なかからは、埋設土器(埋甕)8個のほか、完形土器30個以上、土偶・小玉・勾玉・耳飾などの副葬品が数多く出土しています。現在、史跡公園として整備されています。

## 鳥海山麓歴史の里コース

斎藤宇一郎記念館

白瀬南極探検隊記念館

蛸満寺

三崎山旧街道

八森城跡

土田家住宅

### 斎藤宇一郎記念館(仁賀保町)

この記念館は、昭和37年(1962)斎藤氏の米蔵を改造して開館し、その後、昭和56年(1981)仁賀保町勤労青少年ホームが完成し、その展示室の一角にこれを移したものです。斎藤宇一郎は乾田馬耕や耕地整理などの農業の近代化と農村復興に尽くした人で、その生涯と業績を遺品や農具、書籍や写真などによって展示しています。

### 白瀬南極探検隊記念館(金浦町)

白瀬轟ら南極探検隊の業績を記念するために建設され、平

成2年(1990)に開館しています。外観は円錐形のオーロラドームを中心に展示室が周りを取り囲む独特のスタイル、内部の展示は白瀬南極探検隊、南極、オーロラドームの三構成です。

### 蛸満寺(象潟町)

曹洞宗の名刹で、慈覚大師(円仁)の開創と伝えられています。境内はもとの象潟島の上であり、山門・地藏堂などの古い建物のほか、古井戸・舟つなぎ石・句碑・歌碑・古木・名木などの史跡や伝承が残り、うっそうとした暖地性の常緑広葉樹の森がこの寺の景観をひきたたせています。

### 三崎山旧街道(象潟町)

三崎山は海に突き出した断崖で、山形県との県境にあります。この街道は慈覚大師の開創と伝えられ、北国街道の難所の一つとして知られたところです。江戸時代には、有名な松尾芭蕉、伊能忠敬などが通った歴史の道です。小道には、旅人の往来ですり減った岩場が今でも残り、当時の街道のにぎわいと旅人の苦労がしのべれます。

### 八森城跡(矢島町)

矢島の町を見おろす丘の上であり、中世この地を支配した矢島氏が築城したと伝えられています。その後、仁賀保氏、近世になると榑岡氏、打越氏の支城となり、寛永17年(1640)以後は生駒氏(矢島藩)の陣屋が置かれました。城内には生駒氏勧請の金刀比羅神社、近くには同氏の菩提寺・龍源寺があり、古城の面影を伝えています。

### 土田家住宅(矢島町)

17世紀後半の建築と推定される県内最古の民家で、主屋とその上手前方に座敷中門が突き出す中門造の住宅です。主屋は栗材で丸味のある手斧仕上げの柱が一間ごとにとっています。この住宅は建築年代・柱の配置や仕上げなどから、東日本有数の古い民家です。